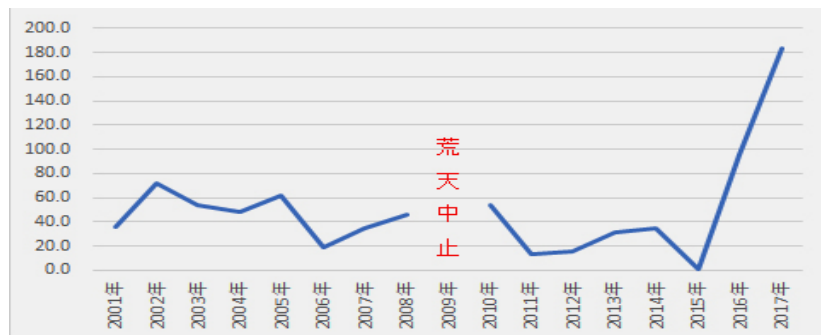


琵琶湖の外来魚問題と歩んだ 18 年

琵琶湖を戻す会 高田 昌彦

私たち琵琶湖を戻す会は、2000 年より琵琶湖の外来魚問題を広く社会に啓発するために活動してきました。主な活動は年 4 回の外来魚駆除大会で、豊かに見える琵琶湖からはブラックバスとブルーギルというたった 2 種類の外来魚しか釣れないことを実体験してもらっています。特に 5 月の最終日曜日は“琵琶湖外来魚駆除の日”として釣り大会だけでなく、琵琶湖の幸の試食会や、地曳き網体験、外来魚解剖教室など、様々なかたちで琵琶湖の外来魚問題と触れあってもらっています。あと、真夏には“エリ漁体験”を開催しています。漁師さんの船にのって、“エリ漁”という琵琶湖の伝統漁を体験しつつ、漁業者の網にも外来魚しか捕れないことを実体験してもらっています。これらは啓発活動として実施していますので、1 尾でも多くの外来魚を駆除することよりも、一人でも多くの外来魚問題への理解者を増やすことに力を入れてきました。これ以外の活動として、駆除活動がオフシーズンとなる真冬に“外来魚情報交換会”を開催しています。ここでは外来魚に関するあらゆる情報を持った方に集ってもらい、情報交換をしつつ人的交流の場として利用してもらっています。毎年のように北は北海道から南は沖縄まで、文字通り日本全国から参加者があり、この会を通して様々な地域間の連携も生まれています。

活動を続けて 18 年目を迎えようとしていますが、この間には滋賀県による外来魚のリリースを禁止する条例や、国による外来生物法など法整備も進んだことも後押しとなり、琵琶湖の外来魚は毎年 1 割前後のペースで生息数を減らし続け、多くの在来魚が湖岸に戻りはじめていました。ところが、外来魚の生息数が減ってきたことがかえって徒となり、行政が駆除活動の手を緩めたため、外来魚の生息数がふたたび増加に転じてしまいました。琵琶湖を戻す会の駆除大会でも、この春に過去最高の駆除重量を記録してしまいました。



外来魚駆除大会（4 月開催）の駆除重量の推移 (kg)

琵琶湖の外来魚駆除の目途が立てば解散するつもりではじめて琵琶湖を戻す会ですが、まだまだやめられそうにないのが現状です。